

家庭内環境の温度監視システム

監視機能付き無線ロガーMD8000 受信器イーサネット接続仕様

家庭内の熱中症対策・環境温度監視を手軽に実施

熱中症は生命にかかわる病気ですが、予防法を知っていれば防ぐことができます。日常生活における予防は脱水と体温の上昇を抑えることが基本です。体温上昇を抑える為には28℃を超えないように温度をコントロールしましょう。また、エアコンの設定温度が低く(24℃を下回る)、外気温と室温の差が大きいと部屋に出入りする際に体の負担になります。エアコンと扇風機を併用して、家庭内全体が快適に過ごせる温度にしましょう。その為には、各部屋の気温を正しく知る事が重要になります。配線工事不要の無線ロガーであれば、家庭内環境温度監視をリーズナブルに提供出来ます。

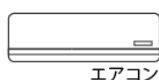
システム構築例

リビング

警報監視時間帯：5:00～24:00

警報設定：上限値：28℃、下限値：24℃

快適な室温（夏：24～28℃）を保ち、外出時や夜間のエアコンの消し忘れを防止します。



寝室

警報監視時間帯：20:00～5:00

警報設定：上限値：28℃、下限値：24℃

就寝時間が近づくと扇風機を点け、室温を下げるのを促し、就寝中28℃を超えた場合、エアコンを点けるのを促します。

浴室・湯温

警報監視時間帯：18:00～21:00

入浴前に浴室と湯温が適温であることを確認します。

トイレ

警報監視時間帯：5:00～24:00

警報設定：上限値 28℃

扇風機を点けていてもトイレの室温が28℃を超えた場合、ドアを開けエアコンの冷気を取り入れるのを促します。

脱衣所

警報監視時間帯：18:00～21:00

入浴前に扇風機を点け、室温を調整し、入浴後の消し忘れを防止します。

特長

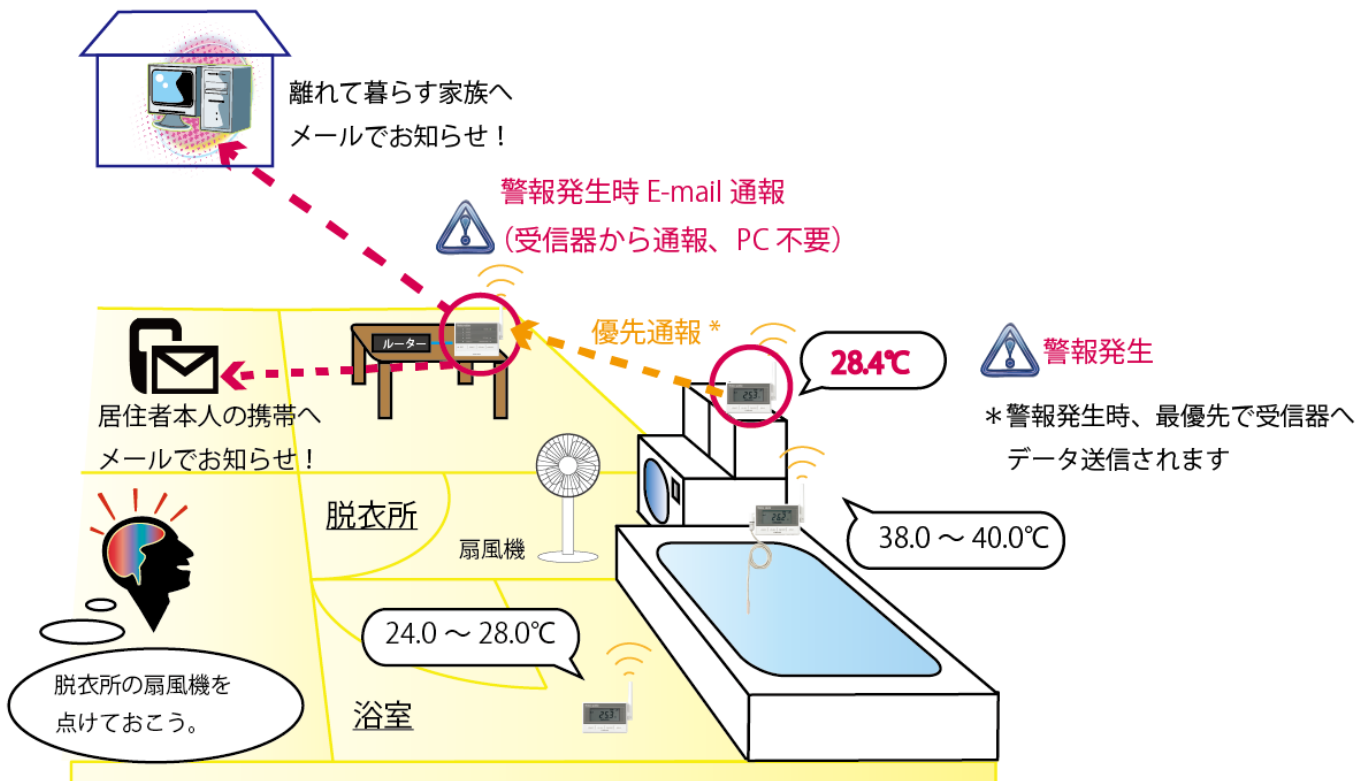
- 配線工事不要の無線ロガー
- 防滴構造の為、浴室にも設置可能です
- 電波到達距離は屋内最大100m
- 温度設定は送信器ごとに個別設定が可能です
- 設定温度から外れた際にはメールでお知らせします
- 警報監視を行う時間を設定可能です
- 中継機能を標準搭載。最大6段中継で各部屋に設置可能です

CHINO

システム概要

入浴中は熱中症が起きやすく危険です。通常、発汗により体温調節を行います。入浴中の発汗は体温低下につながらず、体温は上昇していくので、熱中症が起きやすくなります。

入浴中の熱中症を予防するためには、38℃～40℃のぬるめのお湯で肩まで浸からず、長湯をしないことが大切です。



高齢者は冷房の使用時間が短く、使用した際でも設定温度が高いことが多いです。これは、体の冷えをいやがる事を理由として挙げる人もいますが、老化に伴い皮膚の温度センサの感度が鈍くなり、暑さを感知しにくくなるのも一因です。

部屋に「温度計」を置き、こまめに温度をチェックし、室温を 24～28℃に保つようにしましょう。

ワイヤレスウォッチャなら、理想の温度帯から外れた場合、警報を出すことができます。

また、警報判定を行う時間をセンサごとに個別に設定出来ますので、ライフスタイルに合わせた警報監視が可能です。離れて暮らすあなたの代わりに、家庭内環境の温度監視を行います。

株式会社チノ

小規模モニタリングシステムPCチーム
〒173-8632 東京都板橋区熊野町 32-8
TEL: 03-3956-2131
FAX: 03-3956-8767

ワイヤレスウォッチャ MD8000 シリーズの詳しい情報は
株式会社チノのホームページに掲載しています。
<http://www.chino.co.jp/products/wireless/index.html>